

地域で声かけ・見守り「認知症徘徊模擬訓練」



認知症モデル（左）の言葉に耳を傾け、やさしい口調で声をかける参加者。

網引町で11月30日、「声かけ」「見守り」を日頃から行い、道に迷われた認知症の方を早期に保護することができるよう認知症徘徊模擬訓練「あったか・声かけ作戦」を実施しました。加西市では初めての取り組みで、網引町の住民ら約60人に参加いただきました。

平成26年3月末時点での認知症高齢者の人数(※)は、1,484人(65歳以上の約11%)です。高齢者の増加に伴って年々増加しています。

今後、他の地域でも訓練を行う予定にしています。誰もが住み慣れた地域で暮らし続けるために、地域で見守りの輪を広げていきましょう。

(※) 要介護認定を受けられた方のうち、認知症により日常生活に支障があると判断された方の人数。

■網引町での訓練内容

■認知症サポーター養成講座

佐治真喜子さん（ねひめ・キャラバンメイト）

認知症の方は高齢化に伴い増加傾向にあり、誰もがそうなる可能性があります。もの忘れ（記憶の障害）だけでなく、判断力や計画的に物事を行うことも難しくなる病気です。今までできていたことが、同じようにできなくなるため、日常生活に支障が生じるだけでなく、本人が不安を感じ、混乱することもあります。

また、正しく理解されないことで家族や周囲の人とトラブルになることもあります。家族や地域の方が病気を正しく理解し、その人の「ここ」を感じながら、対応することが大切です。

■模擬訓練

参加者は3人1組で町内を歩き、ボランティアや老人クラブ役員が扮する「認知症モデル」に対して、声をかける練習をしました。

参加者は、講座で学んだ声かけのポイントを参考にしながら、道端に座り込んでいるモデルに、「こんにちは。どうされましたか」「どこから来られたんですか」「家族には伝えて来られましたか」などと、相手の目線にあわせて声をかけていきました。

■意見交換会

講座や訓練の感想、自分自身や地域ができること

- ・声をかけるのは難しい。勇気がいる。
- ・認知症の方か判断が難しく、どのように声をかけていいのかわからない。
- ・初対面の方に話しかけるのは難しいので、日頃から近所の方などにあいさつをすることが大事。
- ・認知症については、家族や地域の方の理解が一番だとわかった。
- ・適切な対応をするには、繰り返し訓練が必要。
- ・迅速な対応ができるよう、多くの人に認知症の方の状態を知ってもらうことが大切。

声かけの7つのポイント

- ①まずは見守る
- ②余裕をもって対応する
- ③声をかけるときは一人で
- ④後ろから声をかけない
- ⑤相手の目線にあわせてやさしい口調で
- ⑥おだやかに、はっきりした滑舌で
- ⑦相手の言葉に耳を傾けてゆっくり対応



認知症モデル（左）の目線にあわせて声をかける参加者。



自分自身や地域ができることについて、意見を出し合いました。

■寸劇

網引町、九会地区老人クラブ、加西警察、加西消防署、加西市医師会、地域包括支援センターの方々寸劇を披露し、認知症の方の対応方法などを楽しく学びました。

(寸劇) おじいちゃんが外出して帰らない

長男の妻：おじいちゃんは困ったもんやわ。今日も出て行って、小学校の方まで歩いて行って帰ってこーへんかったんよ。

長男：ここから4kmもあるやないか。たいしたもんやなあ。

長男の妻：笑いごと違うやんか。私が用事しているちょっとの間に出ていったんよ。こんなことがあるんやったら、近所の人におじいちゃん見かけたら声かけたってねって頼んでおこうかな。

長男：何言うとなんや。近所の人に家の恥をさらすようなことはできひん。家族が探したらそれでええんやろ。



 ちょっと待った

認知症は病気で、恥ずかしいことではありません。声をかけ合うことは、一人で外出して帰ることのできない人を守るだけでなく、地域全体の絆が深まります。声をかけをすることで、認知症の方や家族が安心して暮らせるまちにつながります。

■認知症の方かな?と思ったら

① 1人で歩いている人を見かけたら

少し離れた場所から様子を見守り、ゆっくり近づいて声をかけましょう。「こんにちは」「どうされましたか」「こちらでゆっくりされませんか」など、自然な笑顔でゆっくりと声をかけましょう。

② 警察・駐在所へ通報

声をかけてみたけれど、コミュニケーションが取れず、名前や住所が確認できない場合や、自宅に帰ることができない様子であれば、すぐに最寄りの駐在所や警察に連絡をしてください。

③ 消防署への通報

意識がない、ケガをしているなど体調がすぐれない場合は、すぐに消防署(119番)に連絡をしてください。また、転落や狭い所で動けないなど救助を要する場合もすぐに連絡をしてください。

・家族が外出してなかなか帰らないことがあったら

最寄りの駐在所または警察に連絡してください(時間の経過と共に捜索が難しくなります)。また、一人で外出することがある場合は、家族で抱え込まず、ケアマネジャーや近所の方に状況を伝え、見守りや声かけの協力を得るようにしましょう。身近な地域での見守りが大切です。

【問合せ先】 長寿介護課(地域支援係) ☎428728 加西市地域包括支援センター ☎427522

「加西風土記もち」ができました

加西市播磨国風土記1300年祭実行委員会は、播磨国風土記1300年PRのため、市内の小学生が育てたもち米を使用した「加西風土記もち」を製作しました。



播磨国風土記の中には、お米作りに関する多くの話や地名が記述されています。風土記の時代から加西市でお米作りが盛んであったことがわかります。

1300年前から受け継ぐ肥沃な大地に実ったもち米を利用して作った加西産のお餅をぜひ味わってください。また、お土産や新春のイベントなどにもおすすめです。

■加西風土記もち

原材料/加西市産水稻もち米

内容量/330g 価格/350円(税抜)

販売店/加西市観光案内所(北条町駅内)、ふく蔵(三口町1048)、ええもん王国(北条町横尾473-1)

【問合せ先】 播磨国風土記1300年事業推進室 ☎428756 FAX428745 harima1300@city.kasai.lg.jp